



封建論建白
明治三年

め
二

服部文庫
イ 17
2189
50



117 持
2189
50



封建議

1031

方今我國體所謂郡縣ノ如キ者相參ト云ハ大抵
其制封建ニ近シ今一旦強テ之ヲ改メ一ニ歸セントセハ
只人情ニ悖リ騷擾ヲ醸スノミナラス廉恥ノ美俗ヲ毀リ
躁進ノ惡弊ヲ生シ國脉ヲメ衰弱セシムルニ至ラン人
情時勢ニ適セスンハ

聖上詔勅ノ旨ニ悖ランカ

朝廷ニ於テ大體確立シ大權不移制度刑政必
一ニ出シメハ舊貫ニ仍ト云ハ亦大害アルヲナシ今
試ニ施行ノ策ヲ陳スル左ノ如シ



一大小諸藩速ニ函書ヲ賜ルヘキ事

但漸ク以土地ノ有餘不足ヲ檢シ名實適セシムルヲ要ス

一制度ハ一二

朝廷ニ體認シ一途ニ歸スヘキ事

但歲終ニ一歲ノ賞典刑政ヲ書シ官(出シ死刑以上)

朝裁ヲ可仰事

一朝觀會同土地ノ遠近ニテ制度ヲ立テ行役時ヲ踰シメサル事

但國役軍役軍次員金等決シテ怠慢スヘキ事

一近隣ノ府縣ト親睦シ緩急相救フヘキ事

一名藩其境界ヲ正シ相侵スルヲ禮讓ヲ以テ相親ムヘキ事

一公卿徵士ノ類ニ關内侯トシ土地ヲ與ヘス歲俸ヲ賜ルヘキ事

但從前ノ領地ニ據置事

一臨時ニ巡察使ヲ遣シ政刑ノ整否ヲ檢査スヘキ事

一府藩縣トモニ土地ノ星散スル者漸ク以合一セシムヘキ事

九月

宮津	関	左門
鶴牧	青木久兵衛	
鶴田	生田小膳	
吉田	和田理兵衛	
伊予松山	中金稱平	
薦野	太田省吾	
太田原	太田原高	
欽肥	箱津濟	
岡	中川潜史	
尾崎	服部清三郎	

1033

岸智田	田代	環
柳川	杉森六郎兵衛	
七日市	海野三雄	
宇土	岡音五郎	
八戸	中里行藏	
富山	入江民部	
新谷田	佐藤八右衛門	
肥後	鎌田平十郎	
安房館山	松下直衛	
長瀨	人見秀雄	

岩村	岩松傳藏
堀江	内田理兵衛
丸岡	有馬峻太郎
三春	奥村権之助
多古	佐藤泰造
柳本	味岡弥左衛門
麻生	高木大之進
高槻	館野忠右衛門
伊勢崎	長尾慎二郎
岩槻	高木東一

10
3
4

勝山	加藤右門
山家	清水八右衛門
櫻井	近藤門造
高崎	長坂鉄之助
久留里	田丸謙藏
喜連川	秋元與助
村岡	池田勲一郎
福本	岩本範治
西條	新名字右衛門
小諸	笠間鋼三郎

古河	恩田啓吾
三草	那須金右門
足利	善野 司
小濱	成田作右衛門
龍野	加集寛助
田安	磯部寛五郎
小野	黒石 涯

附議

一東西兩京ヲ置キ畿内ノ制ヲ建ル事

西京ハ五畿東京ハ關八州ト定メ畿内ニ住ル諸侯
 〆所在ノ散布スル官領ニ移封シ移封ノ費用三分
 ノ二ハ官ヨリ給シ年賦ニテ之ヲ上納セシム而文武ノ士
 ヲ諸藩ヨリ高ニ應シテ貢出セシメ朝臣トナシ畿内
 ニ任セシメ親衛兵トナス中下太夫上士モ同畿内ニ
 任セシムヘシ

一諸侯ノ封土ハ三十万ニ限リ其餘地ハ子弟ニ分封ス
 一キ事

但シ子弟ナキ者其地ヲ官ニ預リ子弟アル侍テ
之ヲ封スルヲ許ス尤官ニ預リ中ハ其租税ハ官ニ納
メ其政令ハ藩ニ委ヌ新田込高等ノ規則モ同所
一子弟ノ封ハ十萬石ニ限ル事

右二條ノ如クシテ國家ニ大勲アルモノハ封土三十
萬石ニ充ル者凡百ノ器械金銀米等ニテ賞ス
シ三十萬石ニ充サル者ハ三十萬石ニ充ルニテハ土地
ヲ與ルモ妨ナシ

右

稻津 濟

一奥羽ノ上地ヲ以テ有功ノ臣ヲ封スル事

1036

一諸藩ヲ合シテ軍艦ヲ備ヘシムル事

右

入江民部

一諸侯ノ封土ヲ檢シ名實相適セサル者ヲ減シ其
前地人民ヲ以テ四方ニ節度府ヲ設ケ兵馬ヲ具ヘ
藩縣ヲ牽制シ公卿ヲ以テ之ニ任スル事

右

加集寛助

一畿内ヲ以テカレハ王室ノ諸用ニ乏シカルヘシ故ニ諸藩
ノ高ニ應ジ土地ヲ獻セシメ海陸軍宇ノ備ヲ設ル事

右

松下直衛

一陸軍ハ各藩萬石ニ五十人ノ定額ヲ以テ官兵ト名ケ

各藩ニ預備シ号令紀律一ニ朝廷ノ制度ヲ受ケ
軍資ハ各藩ヨリ官へ貢出し官ヨリ之ヲ給シ兩京
及ヒ諸要地ノ戍兵等ニ備ル事

右 杉森六郎兵衛

一藩主二十名ツク石高ニ應シ兵員ヲ率ヒテ年々
兩京へ更番スル事

右 岩本範治

一万石以上ノ陪臣ヲ藩屏ニ任スル事

一千石以上陪臣中下大夫ト称シ舊幕臣下ノ例ノ
如シ

但シ是迄藩主與フル所ノ土地ヲ以テ朝臣名事
勿論メリ藏米ノ者ハ土地ニ換ルテ藩臣ハ九百石
以下名へシ旬服定テ悉ク土着スルヘキ事

右 田代環

諸藩御規則案

- 一 大小諸藩更々テ璽書ヲ可下賜事其才徳に依り叙任せしむ
- 一 朝覲ノ節度并國役軍役軍資金等決シテ怠慢有之ニキ事
- 一 最寄ノ府縣ト親睦ニ緩急可相救事
- 一 各藩其經界ヲ正シ相侵スル無ク禮讓ヲ以相親ムヘキ事
- 一 制度刑政軍制風俗總テ朝政ニ體認シ一途ニ歸スヘキ事
- 但歲ノ終ニ一歲ノ賞典刑罰ヲ書シ

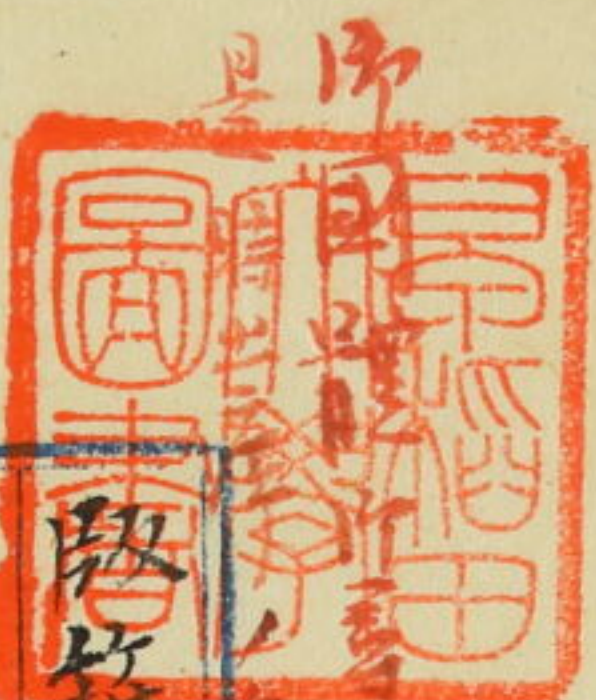


大政官へ可届出尤死刑以上ハ兼テ御布令ノ如朝裁ヲ可仰事

- 一 歲ノ終ニ各藩其治官ノ殿最ヲ課シ 大政官江可届出事
- 一 三年毎ニ巡察使下サルヘキ事
- 右末ノ三条ハ三治一致ノ理ヲ明ス所以ナリ其他藩治御委任被遊候間各勵精謀治片時毛藩屏ノ任タルヲ忘却致間敷旨被仰出度奉存候

尾崎議員 服部清三郎

服部文庫 117



是時封建滿ヲ主張シル百十九人ヨリ再應ノ

無キ者アリテ九十七人連名テ出ス

三治ノ制ヲ以テ知藩事ニ可任トノ

聖問微臣等 伏惟諸侯ノ名插ヲ變更スル而已ニシテ封

建ノ實ハ仍ラ存スル乎將夕既ニ知藩事ノ名アル片ハ

副知事判事等ノ官ヲ設ケ諸侯ノ臣ヲ陞シテ

朝臣トスル乎臣等 未夕

聖意ノ所注ヲ窺ハスト雖モ果シテ然ラハ名ハ郡縣ニ

非スト雖モ實ハ郡縣ニ異ナラス夫レ郡縣封建ノ得

失古今説者紛紜未夕適當スル所ヲ知ラス臣等 之ヲ

以テ見ルニ封縣郡縣ノ果シテ得失アルニ非ス之ヲ措

服部文庫

117

施スル人如何ニ在ル耳古語ニ法者由人而行又有治
人而無治法ノ謂ニシテ其道ヲ得ハ殷周ノ封建モ數
十世ヲ保チ一タヒ人心ヲ失ハ秦ノ郡縣モ二世ニシテ滅
フ其後ハ全ク郡縣ヲ用ユルアリ又郡縣中ニ封建ノ意
ヲ寓スルモ有リ而シテ天下ヲ保ツ長短汚隆アルモノハ
郡封ノ故ニ非ス政治ノ理不理ニアリ今
皇朝ノ勢ヲ量ルニ全郡縣ニ一定セバ許多ノ紛擾ヲ
醸シ兵力モ亦孱弱ナラニ一旦外寇ノ来ル何ヲ以テ之
應セシ且又君臣上下ノ禮ヲ秉リタル藩主藩臣ヲシ
テ一朝比肩シテ共ニ

朝臣トナラシメハ藩主ハ一國ヲ抑制スル權ヲ墮シ藩臣
ハ上ヲ凌轢スル倨傲ヲ生シ互ニ相軋シ告訴訟獄ノ淹
滯スルモノ民間疾苦ノ未タ伸サルモノ一時ニ紛糾庶
務盡ク

朝廷ニ蠹集シ官吏煩冗ニ堪ス天下騷然人情洶々萬
一凶荒アリテ恤典事舉キラス民怨ノ上藩主執政ニ在
ルモノ轉シテ天下ノ怨讟総テ

朝廷ニ凌ラン昨年 維新来兵馬倥偬萬事
叢挫ナルモ今漸ク 德化草水ニ洽カラストスルニ向テ
如此民庶ノ耳目ヲ驚シ重テ人言ヲ招クノ與キアラトス

恐クハ得計ニ非ス竊ニ思フ三百年來諸國君臣上下ノ
分定テ諸候ハ永ク
王臣ノ義ヲ重シ藩臣ハ常ニ陪隸ノ名ヲ甘シ藩臣
ハ主命ニ奔走シ藩主ハ
朝命ヲ奉承シ一旦賦役征伐ノ事アル敢テ違命セズ
朝廷ヨリ直クニ命スルヨリ藩主ノ手ヲ經テ令スルハ
官府ノ勞ヲ省キ事ヲ簡ニスル捷徑ニテ尊ハ益尊
卑上下秩然始テ穆々ノ
天威モ立可シ今知藩事ノ名ハ即チ唐ノ藩鎮ノ
類ニ近クシテ其害救フ可カラサルニ至ラシ因テ諸候ノ

10313

名號ヲ廢セスシテ固君人臣ノ義ヲ存シ其實ヲ責メ
藩屏ノ職ヲ治メシメ府藩縣一轍ノ政令大綱ヲ立玉
ヒ封建郡縣參錯シテ互ニ相維持スルノ實利ヲ而收
シ本末輕重偏倚ナリ制令齊肅シテ天下ノ事務凝
滯ナク政權總テ
朝廷ハ紛一ニ玉ニ委良策至計ナラニ曠懷開襟ノ
下問ヲ蒙リ緘黙ニ忍ヒス敢テ狂瞽ヲ獻ス誠恐誠
惶頓首敬白

飯肥議負 稻津 濟
岡 同 中川 潜 叟

尼崎同	服部清三郎
中村曰	錦織四郎太夫
人吉曰	新宮左太夫
秋田曰	初岡敬次
肥後曰	鎌田平十郎
吉田曰	和田理兵衛
松山曰	中金稱平
菟野曰	太田省吾
田安曰	磯部寛五郎

豫列

10
3
10

岸留曰	田代	環
福本曰	岩本範治	
岩村曰	岩松傳藏	
古河曰	恩田啓吾	
松代曰	望月歸一郎	
鶴牧曰	青木久兵衛	
館林曰	山本四郎	
一橋曰	田中哲輔	
三春曰	奥村權之助	
小松曰	宮田深藏	

櫻井曰	足利曰	館山曰	高崎曰	小冢曰	曾田曰	泉曰	勝山曰	長嶋曰	長南曰
近藤門造	善野司	松下直衛	長坂鐵之助	清水八右衛門	吉田權藏	素原政右衛門	加藤古門	伴勘九郎	津川奇雲

出石曰	小野曰	中津曰	秋月曰	平戸曰	大村曰	津曰	高嶋曰	高瀬曰
府見達左衛門	黒石 涯	生田四郎兵衛	白石左吉衛門	小関與右衛門	長岡新次郎	平井東馬	千野良之助	笠間英之進

秋田新田曰	水野立三郎
尾列曰	大津武五郎
飯田曰	小林物古衛門
臼杵曰	若林勘兵衛
本庄曰	小高半三
太田喜司	糟屋權兵衛
長尾曰	増田 貞
福智山曰	中野重明
森 曰	園田 保
久留里曰	田丸謙藏

三草曰	那須金古衛門
水戸曰	梶 又左衛門
田邊曰	松下嘉古衛門
麻田曰	福井 大助
畚備守曰	赤岸兵藏
西尾徳政守	清水源次郎
壬生曰	増田鏘太郎
筑後曰	早川與一郎
須坂曰	北村經藏
杵築曰	松崎元古衛門

蓮池曰	成富新兵衛
生實曰	京僧彦助
三日市曰	関小四郎
小城曰	持永沼兵衛
完戸曰	日置熊次郎
麻生曰	高木大之進
喜連川曰	秋元與物
濱田曰	生田小膳
伊勢崎曰	長尾愷二郎
丸岡曰	有馬俊太郎

岡田曰	加藤治平
富山曰	入江事
丹南曰	西村純輔
龍野曰	加集寛介
鴨方曰	矢吹卯三次
新庄曰	波多野治衛門
府内曰	樋口十郎古衛門
茂木曰	熊谷貞藏
守土曰	岡音五郎
今治曰	久松修理

田邊曰	堀内謹古衛門
堀江曰	内田理兵衛
土浦曰	小林儀古衛門
小濱曰	成田作古衛門
八戸曰	中里行藏
沼田曰	二階堂貞
吹上曰	佐々木鉄右衛門
岡崎曰	坂口音度
多度津曰	岡田真次
日出曰	帆足龍吉

黒石曰	山崎傳
七日市曰	海野三雄
大田原曰	大田原高
柏原曰	田邊 確
岩槻曰	高木東一
弘前曰	櫻庭太次馬

先



論建白ニタル九十七人ヨリニ度目ニ差出シタル伺書

版籍奉還ニ由テ知藩事ニ命ス可シトノ

御採擇難相成既ニ諸候

伯一同ノ知藩事命シ玉ヒ然ルハ遂事既往ト成リ兎言

論ニ難ク政令歸一ノ御旨趣徹底セテ各議負モ知藩事

於テ盡瘁幹旋スルハ當然ノ儀ト奉存候然ルニ知藩事

ノ名称ハ業已ニ成命拜聴スト雖モ事實作用ニ施ス未タ節

目如何ニテ辨知セス然ルヲ鹵莽暖昧罷在候テモ却テ御

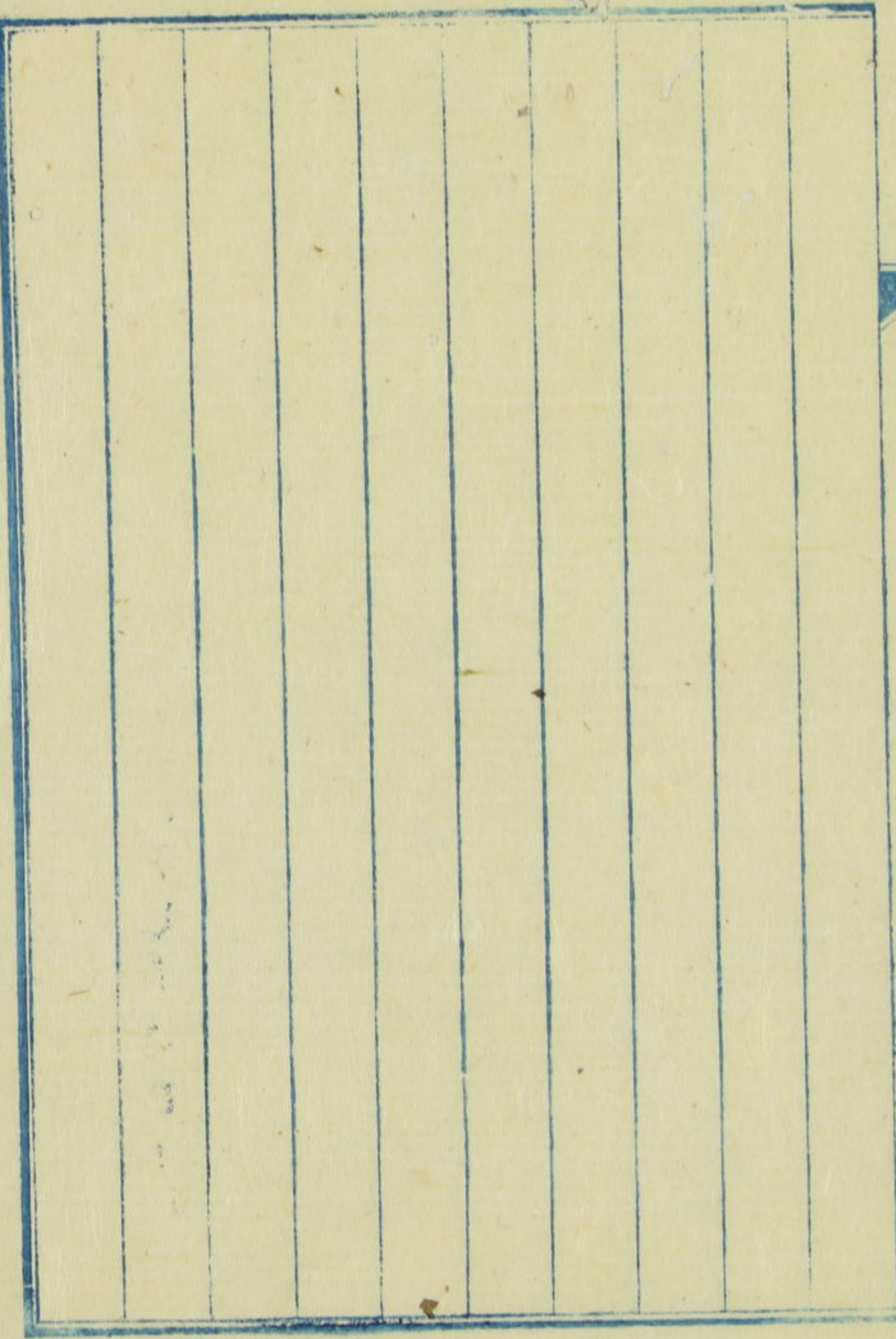
趣意誤リ許多ク空礙ヲ生シテ測リ難ク疑惑ノ條件

尤ニ分疏奉窺候間蒙昧ヲ格キ候様明瞭 御示諭

奉伏願矣

一 天下盡ク郡縣ニ一定セハ上藩ト縣ト名ヲ異ニスルノ理ナシ今

服部文庫 117



藩知事縣知事ノ別稱アリ然ラハ則真ニ郡縣ノ制度
ヲ行フハ縣ニシテ猶フ封建ノ形勢ヲ存スルハ藩ナルニ且ツ
藩ノ知事ハ大故ナケレバ代々世襲シ縣ノ知事ハ差遣交代
スルカ如此レハ名殊ニシテ實亦不同封建郡縣並行レテ相
待サルニ議者或謂フ政令歸一セントセハ藩縣共齊ク郡縣
ノ制度ニ一定セサル可カラス吁此説ノ如キハ天下紛擾錯乱
ノ端ヲ開クナリ夫政令歸一ノ要ハ藩縣制度一定ノ故非
スシテ人心ノ一和ニアリ人心一タヒ和スレハ令行レ禁止政道梗塞
ナシ譬ハ五味各殊ナリト虽ニ調理其當ヲ得レハ五味能ク
和スルカ如シ然ルヲ五味ヲ混濁シテ一トセハ何ノ味ヲ成シ今議者
ノ説ハ五味ヲ受シテ一トスル類ニテ其害不啻ト藩縣ノ強テ

合ス可サル利害如此御趣意如何奉定規度

一 藩ト縣ト名實既同カラス同一知事ニシテ世襲アリ交代
アリ然ラハ管下ノ士ヲ處スル自ラ輕重異同アル可シ府縣ノ士ハ
朝臣タル論ヲ待タス藩中ノ士モ

王臣ハ乃 王臣ナリト虽ニ從前藩主ト主從上下ノ分ヲ存
シ貴賤復別ナル陪隸ノ臣ヲ陞シテ朝臣トセハ忽下ヨリ上ヲ
凌轢スルハ弊ヲ生シ威令ヲ犯シ政令ヲ蔑シ從テ

朝威モ亦伸ビサルヘシ且ツ藩主藩臣一概ニ朝臣トセハ將
相無種不逞ノ徒功名覬覦ノ念ヲ生シ

朝廷ヲ狎褻輕侮スルニ至ラニ何ヲ以テ之ヲ制御セシ目テ藩
士ハ藩知事ニ隸屬シテ主從上下ノ別ヲ存スベシ尊卑ア

リテ紊レズ事務簡ニシテ煩カラス藩知事ハ

朝命ヲ奉養服膺シ藩士ハ主命ニ致々從事セハ人ニ奔
競躁進ノ風自絶ニ就中藩中才徳ノ士ハ

朝官ニ擢用シ人々自勉ノ道ヲ開キ 朝士ノ濫取ス可
ニサルヲ示ス宜ヲ得タルニ似タリ 御趣意如何奉伺度

一 神武創業ノ時功勳ノ臣ヲ封建シ國家ノ藩籬トシ大偉
績ヲ布キ玉フ然テ

維新己来 御政道往々 神武創業ニ基カセラレ

祭政一致ヲ始メ官職ニ至ルマテ古制ニ復セントスルニ独リ封
建而已古ヲ変シテ郡縣ノ姿ヲ成ントス轅ヲ北ニシテ楚ニ
行ノ類ニシテ 神祖ノ意ニ及スルニ似タリ今諸侯ノ名ヲ

更ムト雖モ仍ホ藩屏ノ名アリテ封建ノ実アレハ宜シク藩

屏ノ任ヲ治メシメ 皇國ヲ保護シ 神祖ノ遺意ニ

副フ可シ 御趣意如何奉伺候

一 西土ニ於テモ三代ハ勿論漢以降モ郡縣中ニ封建ノ制ヲ設
ケテ國家ヲ維持ス是郡縣ナレハ兵力孱弱士民上ヲ親ニ
長ニ死スル心ナク一旦内盜外寇ノ来ル刺史縣令タルモノ其
管領スル所固リ墳墓ノ地ニ非ハ必死防禦ノ志ナク衆ニ先
手棄テ之ヲ去ル下タル者既ニ首領ヲ喪フ支離潰乱何
ソ寇盜ヲ防ニ暇アラシ因テ歷代明主此弊ニ懲リ全ク封建
ニ復スル能ワスト雖モ封建ニ藩屏ノ制ヲ參用シテ國家ヲ
保全ス今宇内航艦往來各國互ニ相壅呑ス

我神列海中ニ孤立ス藩籬ヲ固クシ折衝禦侮ノ法ヲ備ヘ
サル可ケンヤ藩籬ヲ固クスルハ人々其墳墓ノ地ヲ重シ抵死防
禦セシムルニ在リ是郡縣ノ能為ル所ニ非ス故ニ西土於且封建
ヲ以テ利トス況ヤ

皇國ニ於テヲヤ御趣意如何奉窺候

一 政令歸一ノ極意ハ人々 朝廷ニ於ル其威ヲ仰ク日月

如ク其恩ニ感スル父母ノ如ク一号令ニ禁制出ル毎ニ天下奉戴
服從ニ邊土僻陋マテモ一人違戾セス綱ノ細アリ車ノ軸アル
如ク本末宜シテ得テ始テ政令歸一ト云フ可シ然ルニ議者及テ
藩縣ノ制度ヲ混ニ政令歸一ト称ス方寸ノ木ヲ岑樓ヨリ
高フスルノ類ナリ各國制度ノ如キ東西地方ニ因テ土風民

情自ラ異ナレハ士ノ俸給民ノ租稅等其他件々各藩齊一ナ
ラス強テ之ヲ混一セハ反テ擾亂ヲ醸成シ事々理ニ難カラズ從
来一藩限り處置スル支ヒ郡縣ノ形ニテハ聊治メ難キ支
件ハ尽ク 官ノ裁斷テ乞フ然ル寸ハ天下ノ訴訟怨讟尽
ク 朝廷ニ増集シ業甚煩冗ニ煩ハス政令歸一ノ實効
奏シ難カレハ由是觀之ハ各藩制度ノ如キ土地ノ宜シ隨ヒ
知藩事ニ委任シ 官ヨリ唯大經ヲ總轄シ黜陟賞罰
其餘因ノ大典理義ノ當然モハ安クニ行クトシテ不同アラシ
是等 朝廷ヲ以テ標準トシ振整スヘシ若不同アラハ
速ニ革メシメ御趣意如何奉窺候
右件々憂國過慮ノ余惴惴ヲ吐露シ尊卑嚴ヲ日讀

大臣等不省職議員列スレハ一藩一邑ノ利害顧念ス
ル能ハス天下ノ利病

朝廷ノ得失而已奉恐考候敢テ不敬ヲ顧ニス狂愚ヲ
呈ス區々ノ至情且シク 却亮察在セラシ逐條却明

何国何城ノ領テ玉フトノ印墨ヲ給リ請居ノ名ヲ改テ
却將ト号シ其才徳ニ依テ叙任セシム日建言仕候

別ニ一條 王畿直国何ノ國ト定メ列藩ヲ強將勇捷ノ士ヲ擢舉セテ

親兵ニ備其國々ノ上將ニ統帥ノ廣裔タル親王公卿ヲシテ
其土ニ居ラシメ固有ノ諸藩ヲ附屬トス

主張シタル者三度目ノ伺書ニ在リ通り御核撥



世及云々事々々 仲吉係の漢

教を以テ之を以テ事々々其大旨ヲ揚スハ今

服部國經御核撥シテ事々々

神式ニ入テ御創業ヲ御規模ト改修後新

之大曲ヲ移メ天年ノ御趣ニ有テ之を其在後

候ニ付テハ外著駕叙之曲型ニ事由セラシ海陸

之軍備後名ニ適シ内外ノ會計ニ至ル迄夫レ

服部文庫 117

御是に七社あり之到底園圃ノ力ヲ合セ御侮
ノ法ヲ可成ノ後トノ思ハレカクニ固キ
檀原之御守君別縣主稻置直守之國造
ヲ置キ心名シ分置シ兵農一致地者世襲之
御治體即封建之地郡縣ノ制ノ數ヲ強兵
富國ノ意蹟ヲ尋ケ

皇澤四社之君位之臣ノ辨自相立ケ修護

ニテニ云ニ王化隆治ノ極トモアリ一統夫ヨリ以所制
ヲ彼ニ傳リ三代盛治ノ封建ヲ捨テ郡縣郡縣
ノ制ヲ取リ其弊害ヲ逐ヒ遂ニ王綱紐ヲ解キ
錐房式ヲシテ執カテ專ニセシムルニ至レリ今ヤ
幕府大政ヲ返上スルニ至テハ大小諸藩モ亦土
地人民ヲ奉還セシメ固ヨリ王當ノ理ト云ヘシ抑
今ノ藩を治ル者多クハ公侯伯子男ノ封爵モ
之レ無ク諸侯ト稱スヘキノ義ナリ名家豪族

以下鎌倉室所織坐徳ノ五霸ヲ扶ケ之カ
徒彼ヲ執ト主上ヲ竊之王臣ヲ私ニ自然大者
ノ名存ヲ相立テ強弱ヲ併セ大ニ小ヲ役シ王
ヲ外ニ之覇ヲ内ニ之未縣薄惡ノ俗スラ尚ホ王
土至及ノ義ヲ存シ候ヲ却テ割據分裂ノ政者
之修事一平一大義名分不相立之ニ于テ凡
物ルレハ力弱ク合スレハ力強キ自然ノ道理
有之是等ノ情勢馬ト相方ハ諸藩一同志

誠夏國ノ至情ヲ以テ版藉返上相親ク段即
洞悉之上ニ直様御採用可相成ト勿論之事候
将手ある事問之弊者ヲ一朝名義ヲ以テ相
改リ保シ存ス不致有思事奇權又廣ク
動問モ相成リ至衆論到底名義改テ國
力合一ニ説歸シテ此上所稱豫不相成而
ニモ無ク之遂ニ公論ニ由テ改而藩職被
仰カル事トハ雖然前案不容易事候

豫員中ニモ右等ノ子(子)深ク直長(直長)イタリ別
紙書其ノ情ヲ以テ細ク相伺候用條朝豫之
節即奉為(奉)可(可)為(為)備置(備置)以(以)併(併)之(之)全(全)體(體)
即(即)豫(豫)之(之)前(前)又(又)以(以)身(身)三(三)十(十)日(日)決(決)豫(豫)即(即)施行(施行)相(相)成(成)
候(候)家(家)守(守)此(此)段(段)深(深)ク相(相)報(報)入(入)極(極)此(此)上(上)三(三)心(心)附(附)以(以)
件(件)ノ精(精)々(々)百(百)兩(兩)時(時)具(具)四(四)ノ一(一)之(之)即(即)遺(遺)算(算)無(無)
之(之)餘(餘)盡(盡)力(力)以(以)致(致)修(修)也(也)

議長

